

すずむじ

倉敷昆虫同好会発行
倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内
(連絡事務所 倉敷市幸町倉敷昆虫館内)

ムラサキツバメの食樹

シリブカガシについて

難波通孝

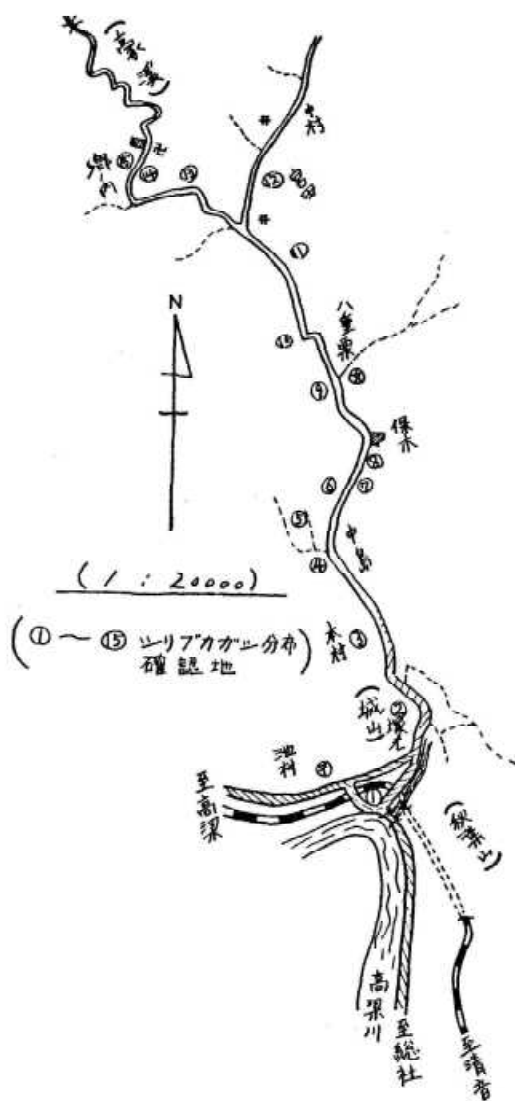
ムラサキツバメの食樹はマテバシイ、シリブカガシであることが知られているが、総社市の豪溪、倉敷市の浅原、速島そして笠岡などで数少いが採集されているにもかかわらずこのムラサキツバメの食樹の存在が明らかでなかった。この問題を倉敷昆虫同好会において知りこの食樹確認を思いついた。9月22日成虫採集を兼ねて同好会々員の黒田君と豪溪に出かけた。この日はまだ食樹の特徴を知らずに自分の知っているブナ科植物即ちコナラ、クヌギ、アベマキ、アラカシ、ナラガシワ、ミズナラ、カンワ、を除いたブナ科植物の枝を自宅に持って帰り兄と調べた所兄はまずシリブカガシに違いないといっているので再び9月24日豪溪に行き図鑑の説明通りであるシリブカガシを確認した。いく本もの大きな樹林が目の前に広がって葉上一面に花穂を満開させていた。9月29日兄と豪溪に出かけ調査した。豪溪入口で家屋に栽培されているシリブカ

ガシ3本を確認した。これを最初として1本より数十本の群落に至るまで次々と確認し計15箇所を見つけた。分布は地図に示す通りである。地図番号③と⑦の所にて成虫の採集をした所ムラサキツバメは目撃さえなかった。③の所にて完全なアサギ2ダラ④顔を目撃した。ついでのことシリブカガシの特徴を記載して見た。

- ①晩秋開花する。
 - ②花穂は上向する。
 - ③雄花が上にありその下に雌花を有する。
 - ④葉裏は銀白色である。
 - ⑤果実は尼深である。
- などがあげられ①の晩秋開花は他のブナ科植物において例がなく、②の花穂上向は他にマテバシイ、ツブラジイ、イタジイのみである。⑤の尼深は名のとおりである。このシリブカガシの分布を見



るとどれも川に沿っているためその流れによってドングリが運ばれ下流に広がったと考えられる。従って成虫が採集された倉敷の宮の浦、浅原にし



ても高梁川によりドングリが運ばれ自生しているのではないかと思う。阿好会においても発見が待たれているため植物の方面で詳しく調査されている小坂弘先生（阿智郡哲西町大野部）におおしえねがったところ大変ご親切な返事をいただきました。

小坂先生の調査記録によれば

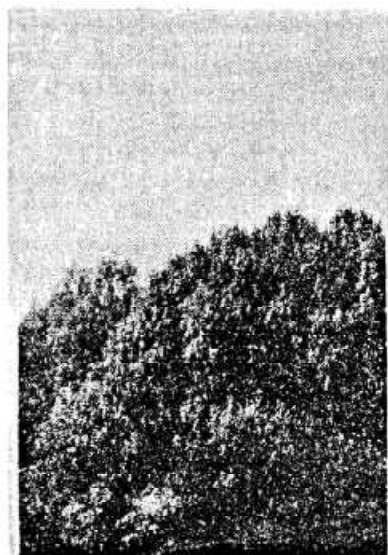
(マテバシイ) 泉下の沿岸地方に分布すると思われるが、いまだ記録はない。

(シリブカガン) 泉南地方すなわち備中南部と備前地方の山地に分布しているようである。今までの採集記録は次のとおりである。

備中 浅口郡鴨方町阿部山
総社市横谷
小田郡美星町
小田郡矢掛町

備前 和気郡備前町（旧和気郡伊里）
御津郡御津町（旧赤磐郡葛城村）

とシリブカガンについては6ヶ所に記録があり、豪溪もすでに調査記録されていました。尙倉数はシリブカガンについて未調査となっているのでムラサキツバメの倉数での採集記録は今後も興味ある問題と思われる。



。又阿部山、美星町、矢掛町、備前町、御津町においては今後の調査により成虫の採集が大いに期待される。筆者は今まで6回豪溪にムラサキツバメを求めて行ったが、その姿さえ見ることが出来なかったのもう豪溪にて得ることができないのかと思っていた所、10月20日ついに「シリブカガン分布地図番号⑦」の所にて羽化したばかりのように新鮮なる1匹を得た。これはどこともなく飛んできてシリブカガンに止ったが姿が見えないため1度ネットに入れそこなったが遅よくすぐ上にあった松の枝の先端に止った所をネットしたものです。写真はシリブカガン及びその林であるがこの1匹も写真にうつっているシリブカガン林にて採集した。いままでも豪溪にては数頭採集されていますが食樹と関連し、つけくわえて報告しておきます。

最後になりましたがこの調査についていろいろご指導と資料を提供して下さった小坂弘先生に厚くお礼申し上げます。又研究材料とご親切な指導をして下さいました倉敷昆虫同好会の重井先生青野先生に深く感謝致します。

ゼフィルス 4 種飼育記録

難波通孝

ウラジロミドリシジミ

今年の2月頃より倉敷市黒田に卵採集に行き始めた。2月24日黒田に自生しているナラガンワより多数の卵を採集。自宅に持って帰り自然状態に置き孵化の日を待った。

4月11日希望の日がやって来た。カメラ、時計、筆記用具をそなえてじっと待った。午前10時33分40秒卵にあげている穴より頭がのぞきかけた。いよいよ孵化するのである。37分頭部が出てしまった。それからはいよいよと卵より出るのである。38分30秒体長の $\frac{1}{2}$ 位出た。39分50秒体長の $\frac{3}{4}$ 位出る。40分50秒孵化が終了。体長1mmあるかないかである。色はネズミ色に近かった。

4月15日ナラガンワの葉の付け根の表側だけ食べて裏側は残していた。体長2mm半。

4月16日体長3mmを越え色はわづかもも色をおびていた。

4月17日体長3mm半となる。

4月21日運動感がなく丸くなったようでどうも1眠起らしい。体長5mmとなっていた。脱皮は見えなかったがやはり1眠起であった。

4月23日体長8mmを越える。

4月24日葉脈の間を長方形のように食べていた。いままでの食を見て葉脈だけは残している体長9mmと成長していた。

4月25日体長10mm半となる。

4月26日葉の付け根にじっと静止していた。

4月28日午前8時さわつて見るとかたく26日より葉を食べていないので眠起らしい。体長9mm半と短かくなっていた。午後9時やはり眠起であり脱皮していた。体長10mm。

4月29日朝8時体長すでに12mmとなる。色はだ色に茶を少しおび背面はそれより濃いかた。午後8時体長13mmとなる。

4月30日朝8時体長はやくも15mmを越えていた。この頃になると朝と夕方では大きく体長の差が違ふ。夕方体長17mmとなる。幅6mmであった。

5月1日朝8時体長が短くなり16mm半となっていた。短くちぢまったように感じた。

5月2日朝8時別に置いているナラガンワの樹皮に上を向いて静止。蛹となるのであろうか。横

から見ると頭部の少し後の背面が他より1段と高かった。体長18mm。

5月4日再び葉上に帰っていた。

5月5日朝又別に置いている樹皮にさばっていた。夕方又も葉にもどっていた。

5月6日朝再び樹皮に移っていて体長16mmと短かくなっていた。なぜこのようなことをするのか不思議に思った。夕方より一層短かく又小さくなり体長13mm。

5月8日夕方いよいよ蛹になりそうである。体長12mm。目に見えないような糸を樹皮をくっつけていた。同日午後10時15分見ると少し細長く丸味をおびたようで今にも脱皮しそうである。糸はすべて茶色をおびすこしちぢれていた。体の色は全体はだ色より薄く体長は12mm。すでに筋々には少ししわがよっていた。10時36分この頃より次第に前足の形が蛹の形に近くなる。ここで筆者が少し目を離している間に脱皮を始めていた。10時56分のことである。約10秒おきに体をのばしたりちぢめたりして皮をぬいでいた。10時59分も35秒おきに体をうねらしていた。11時4分頃終了した。背の方が速く脱皮し腹面が遅れて脱皮する即ち横から見るとななめくって進行していたのである。温度20度、湿度84パーセント。この脱皮の際感じたことは幼虫の体と樹皮とが3本位の糸によって結ばれているのに幼虫の皮が体と糸との間をくぐっていく時のことを不思議に思いルーペでその過程を見ていた所皮はその糸を無視するように同じ速度でぬげた。

5月9日夕方もう色も黒色がまだらに入り体長11mmに少しならなかった。

5月29日いよいよ待ちに待った羽化の日がやって来た。様子がおかしく蛹の腹部の節が少しのびていた。気をいれてじっと待っていた。朝7時21分45秒蛹の前部背面が「バツ」という音をたてて割れ中よりウラジロミドリシジミの成虫が出てきた。胸が痛った。26分15秒オード色の少しねばりけのある汁を数滴だすと腹部が見える。見る内に細くスマートになった。羽が目で見られるようにのびていた。27分30秒大きく羽はのびたが全体が大きくしなっていた。29分ほどとんど完全にのびたが下から見るとまだ小さいしわが

よっていた。8時3分飛ばして見ると普通にはばたくが羽がまだしめっているのであろうか60度方向に落下する。8時44分飛ばして見るともう羽は乾いたのであらうか急ではないが下から上へ上る能力を持っていてかなり速度も速くなっていた。この飼育は幼虫期28日、蛹期21日で性は♀であり食樹はナラガシワであった。

他の飼育例を記載してみると、4月13日孵化、5月10日蛹化、5月28日羽化、これは食樹カアベマキで本当の食樹ではなかった。幼虫期28日、蛹期18日で性は♂であった。又他の例は4月13日孵化、5月14日蛹化、6月1日羽化、食樹はこれも本当の食樹ではなくアベマキであった。幼虫期32日、蛹期18日で性は♀であった。次はミドリシジミの飼育記録をあけて見た。

ミドリシジミ

卵は2月17日倉敷市黒田に同好会会員の中島君、黒田君といった時ハンノキより黒田君が見つけ多数採集したものである。ミドリシジミと以下2種(ミズイロオナガシジミ、アカシジミ)については大切な所だけ簡単にまとめた。

(孵化について)

特に感じたことはほとんどが午前中(大体10時頃まで)に行なわれる。卵に穴をあけ始めてから3日~4日で孵化する。孵化が始まってから終わるまでに要する時間は7分かかるのもあれば2分30秒しか要しないものもあった。

(眠起について)

脱皮している所は残念ながら見えていないが、脱皮前は丸く短く幼虫の肌に運動感がなくびくともしない。しかし脱皮後は色も新鮮でのびのびと運動感にあふれている。

(蛹化について)

蛹になる直前まで緑色の濃い程度だった幼虫の色が白色と黄色をおびてきて色が薄くなってしまふ。そして先端部は蛹の形に似かよって茶色味をほんの少しおびて細長く丸くなるといよいよ脱皮する。脱皮したすぐ後は蛹の形に少し似ているだけである。この脱皮に要する時間は約6分であった。脱皮を始めて20分たつと完全なる蛹の形となる。木の皮について蛹になったものもあれば葉裏でなったものもあった。

(羽化について)

羽化する頃になると蛹は黒に近く黒ずんでくる「バツ」という音と共に前部背面が割れる。出てきた成虫は羽をのはすのりに便利のよい所まで歩きある所まで来ると静止し羽がのびるのを待つ。下羽は外から見ると凹の形になり上羽よりやや遅

れてのびていた。蛹が割れて蛹より脱出するまでに要する時間は約25秒、それから大体羽が伸びるまでに約13分の時間を要した。

飼育例をあけて見ると次のようであった。

3月21日孵化、5月10日蛹化、5月27日羽化(幼虫期50日、蛹期17日、性♂)

3月22日孵化、5月7日蛹化、5月24日羽化(幼虫期46日、蛹期17日、性♀B型)

3月23日孵化、5月7日蛹化、5月25日羽化(幼虫期45日、蛹期16日、性♂)

3月23日孵化、5月12日蛹化、5月29日羽化(幼虫期50日、蛹期17日、性♀O型)

4月4日孵化、5月17日蛹化、6月2日羽化(幼虫期44日、蛹期16日、性♀B型)

なお終令幼虫の体長は20mm前後、蛹の体長は12mm前後であった。

ミズイロオナガシジミ

この卵は岡山市金山、東山、倉敷の黒田、山手村にてアベマキより採集、ナラガシワに産卵されているものも2~3あった。

(孵化について)

卵に穴をあけ始めて4日位後に孵化し、幼虫は他のゼフィルス3種に比べると卵から右側を出し今度は左側というように調子よく出ないように思われた。2回見ただけなので何とも言えないがそのように感じた。要する時間は3分50秒であり他の1卵は2分40秒であった。

(蛹化のための糸張りについて)

この有り様はここにおいて始めて見ることが起きた。朝起きて見ると体を折り曲げたような形をしていたので観察すると糸を体にはっていたのだ。体を「くの字」に曲げ糸を樹皮につけると今度はグツと上を向き頭部をそりたつようにして反対側に移り体を曲げ樹皮に糸をつけるといった調子である。本当に本能というものには驚いた。なお往復に要する時間はやく10分であった。他の脱皮などは見ることが出来なかった。

飼育例をあけて見ると次のようであった。

4月16日孵化、5月14日蛹化、6月1日羽化(幼虫期29日、蛹期18日、ナラガシワにて飼育)

4月6日孵化、5月8日蛹化、5月28日羽化(幼虫期33日、蛹期20日、アベマキで飼育)

4月8日孵化、5月9日蛹化、5月28日羽化(幼虫期31日、蛹期19日、アベマキで飼育)

なお終令幼虫の体長は17mm前後で蛹の体長は10mm前後であった。✻

おとしぶみ

児島郡灘崎町でトラフシジミ
の終令幼虫を採集羽化する

1963年6月15日、学校が終って自転車で同町彦崎に行き、山合附近を採集中、ぐうせんにトラフシジミの終令幼虫を採集、自宅で飼育中、25日ごろ羽化した。県下では最初の記録と見い報告しました。(大野憲一)

総社産甲虫三種

1) *Anthicus tanakai* Komura

タナカホソアリモドテ

採集場所 岡山県総社

採集日 1953年9月10日

上記の虫は自宅燈火に飛来したもので見馴れぬものと思いながらも専門家の同定も求めず長らく放置していたものであるが、この度発行された、北隆館「原色昆虫大図鑑Ⅱ」により上の如く種名が判明した。

伯耆大山蝶採集品

難波通孝

1963年7月28日、29日、30日の3日間父と行った時の採集品でめぼしいものだけをあげてみました。

28日 寂静山—大神山神社—元谷小屋(晴)

29日 横手道—樹水ガ原—文珠堂(晴のち雨)

30日 蒙円山—樹水ガ原(晴)

以上の日程にて43種を採集したがその内30種を記した。

- | | | |
|--------------|-----|------------|
| 1. キアゲハ | 1頭 | 樹水ガ原 |
| 2. オナガアゲハ | 2頭 | 大山寺部落 |
| 3. カラスアゲハ | 2頭 | 横手道, 大山寺部落 |
| 4. ミヤマカラスアゲハ | 1頭 | 横手道 |
| 5. クロアゲハ | 1頭 | 大山寺部落 |
| 6. ヒメキマダラヒカゲ | 2頭 | 蒙円山, 大神山神社 |
| 7. ヒメヒカゲ | 3頭 | 樹水ガ原 |
| 8. ジャノメチヨウ | 3頭 | 樹水ガ原 |
| 9. アサギマダラ | 15頭 | 大神山神社, 横手道 |
| 10. コムラサキ | 5頭 | 横手道 |
| 11. イチモンジチヨウ | 2頭 | 大神山神社, 横手道 |
| 12. アサマイチモンジ | 1頭 | 横手道 |

- | | | |
|-------------------|-------|-----------|
| 13. ヒオドンチヨウ | 1頭 | 横手道 |
| 14. アカタテハ | 1頭 | 大山寺部落 |
| 15. ルリタテハ | 1頭 | 大山寺部落にて日撃 |
| 16. オオウラギンスジヒヨウモン | 3頭 | 大神山神社 |
| 17. オオウラギンヒヨウモン | 1♂ 2♀ | 樹水ガ原 |
| 18. ウラギンヒヨウモン | 3頭 | 樹水ガ原 |
| 19. クモガタヒヨウモン | 1♂ | 横手道 |
| 20. ミドリシジミ | 1♂ | 大神山神社 |
| 21. ウラギンシジミ | 1頭 | 大神山神社 |
| 22. ジョウサンミドリシジミ | 2♂ | 横手道 |
| 23. エゾミドリシジミ | 2♀ | 大神山神社 |
| 24. ウスイロオナガシジミ | 3頭 | 横手道 |
| 25. オオミドリシジミ | 2♂ | 横手道 |
| 26. トラフシジミ | 3頭 | 寂静山, 横手道 |
| 27. ゴマシジミ | 27頭 | 樹水ガ原 |
| 28. コキマダラセセリ | 1頭 | 横手道 |
| 29. アオバセセリ | 1頭 | 横手道 |
| 30. ヘリグロチャバネセセリ | 1頭 | 横手道 |

※アカシジミ

卵は岡山市東山と金山にて1個ずつ採集(アベマキより)

(孵化について)

孵化する4日前頃より卵に穴を明け始める。孵化に要した時間は2分5秒であった。

飼育経過は4月8日孵化, 5月6日蛹化, 5月19日羽化(幼虫期29日, 蛹期13日, アベマキにて飼育)をお終令幼虫の体長は17mm, 蛹の体長は11mm半であった。

終りにこの卵採集, 飼育についてご親切な指導並びに資料を下された倉敷昆虫館の諸先生には深く感謝致します。また, アカシジミの卵採集をご指導して下さった同好会々員宮松勇吾様に深く感謝致します。

◎この飼育は次の文献を参考にしました。

- 白水陸 保育社, “原色日本蝶類幼虫大図鑑
原 翠 “FOL”
横山光夫 保育社, “原色日本蝶類図鑑,

おとしぶみ

2) *Leiopus guttatus* Bates
ナカバヤシモモトカミキリ

採集場所 岡山県総社

採集日 1952年6月13日

本種も燈火に飛来したものであるが、稀なようでその後一度も採集したことがない。

3) *Acanthocinus griseus* Fabricius
ヒゲナガモモトカミキリ

(スジマダラモモトカミキリ)

採集場所 岡山県総社

採集日 1954年8月4日

本種も燈火に飛来したものである。あまり多くはないようで岡山県ではこれ以後採集していない以上いささか古い記録であるが、参考迄に。標本は筆者所蔵。

(水野弘造)

四国産甲虫数種

下記の虫は北隆館「原色昆虫大図鑑Ⅱ」に四国は産地として挙げられていないが、次のデータによる土居祥兎君採集の標本を筆者は所蔵している

1) *Mimodes carenifrons* Grouvelle

アナバケオオズデオネスイムシ

1954年3月23日 高知市内。

2) *Mimodes Japonus* Reitter

コバケオオズデオネスイムシ

1954年4月19日 高知市内。

3) *Andastus atriceps* Crotch

キムネヒメコメツキモドキ

1954年8月6日 高知県土小崖。

4) *Analastus praeustus* Crotch

ツマダロヒメコメツキモドキ

1954年8月7日 高知県本川。

なお本種は、保育社版「原色日本昆虫図鑑(上)」には剣山産のものが図示されている

5) *Phaeochrous asiaticus* Lewis

フチトリアツバコガネ

1953年8月14日 高知県土佐加茂。

6) *Holostrophus orientalis* Lewis

アヤモンヒメナガクチキムシ

1954年4月19日 高知市内。

以上。 (水野弘造)

草間でイツシキキモンカミキリを採集

1963年6月23日、同好会の新見市草間における採集会の際、井倉から草間に通ずる道で、県下で未記録であった、本種 *Glenea (Glenea) centroguttata* pairmaire (1897) イツシキキモンカミキリ 1 ex. を採集したので報告します。当地では、ヌウイービングによって得たので、食草は全く不明ですが、「新しい昆虫採集」(京浜昆虫同好会編)によると「幼虫は、台湾ではクワを加害する」とあり、また附近にもクワが認められるので興味深いと思います。

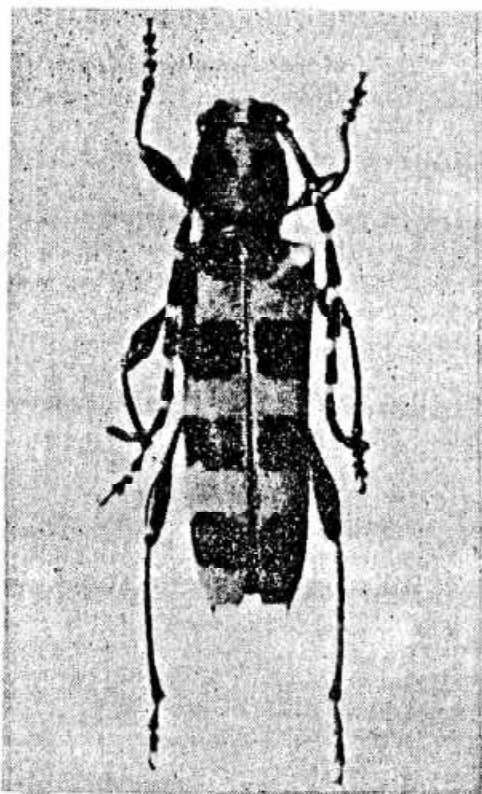
(山砥司朗)

備中町井川にアカジマトラカミキリ

1963年9月24日、日岸に家族そろって、井川へ墓参りに行った。シーズンは過ぎてはいたが

おとしぶみ

昆虫の多いところであるので、附近へ採集に出かけた。午後3時頃お墓の向う側のイチジク畑の下で、イタドリの上に残っていた本種 *Anaglyptus bellus* Matsumura et Matsushita アカジマトラカミキリ1exを採集した。岡山県下では初の記録であるので報告しておく。発生期は8~9月であるので丁度本種のシーズンにあっていたようである本州及び四国に分布する。



(貝原英治)

草間でフタテンカメムシを採集

1963年6月23日、倉敷昆虫同好会主催の採集会が、新見市井倉で行われた。

井倉から草間へ通ずる坂道で、抽虫網や、たたき網などを使用して採集を続けた。そのうち一行からはぐれてしまったが、その際に採集したカメムシの中に本種 *Laprius varicornis* Dallas フタテンカメムシ1exがまじっていた。県下で

も珍しい記録のようであるので報告する。本州、九州、インド、支那に分布する。



(小林健二・楠田雲居)

倉敷のミンミンゼミ

倉敷市における *Oncotempana maculaticollis* Matschulsky ミンミンゼミの分布については、まだ十分な調査が行われていないが、従来市街地中央の鶴形山公園のものゝ著名であり故白神昭氏は毎年秋回はその声を耳にすることができることをよく話しておられた。会編纂の「鶴形山の昆虫」

(Vol. 1, No. 7, 別冊, 1951)にもこれらの資料を元に、鶴形山のセミ科目録に含めてあるし、最近では佐々木良一氏からの同様の報告をよく聞かされているところである。

古屋野寛氏からは倉敷レイオン倉敷工場内でも毎年必ず耳にすることができることをお聞きしている。

又、市北端の福山から庄にかけての丘陵地帯でも本種の声を聞くということをも、3の方々から知らされている。

しかしながら、これらのいずれの地域においても、その発生の個体数は、かなりに少ないものゝようであり、市内産の標本に接する機会には、まだ恵まれない、といった状態である。

ところで、本年(1963年)9月6日、市内平田、東中学校内で、休憩時間に1年生の味野仁君が本種1匹を採集した。市内産の生きた個体を初めて見るので、一分布資料として報告しておく。

(小野 洋)

北海道記

(1)

— 昭和38年度 —

秋山博志

夏の北海道は高級避暑地として我々の様な居候にはちょっと手の届きそうにない所にある。また虫屋には北方系昆虫の産地として興味ある所である。誰でも一度は白い網を振りたい所である。私はこの夏北大に居る前田君からの誘いもあったしそれにバイトも北海道に見つけたので早速出かけてみる事にした。全てが無計画な放浪の旅であった為に昆虫の採集した数も少なくまた歩いた所も無駄が多かった。だがまたそこには別のおもしろさがあった。次にまずい文ではあるがその全容を書いてみる。

7月16日準急鷺羽2号で岡山を出発(然別まで学割で1,562円)大阪から急行日本海号に乗り換え翌17日夕刻青森到着。ここまで来ると岡山での暑さは夢の様である。夏の服を着ている我々には寒かった。風雨激しい夜の津軽海峡を渡るといよいよ来たかという感じがする。翌18日然別に着いてバイトの話をもとめて翌日俱知安に行きバイトを始める。8月14日まで約20日間程バイトをして資金を作る。1カ月近くも俱知安にいたのだからこのあたりの事はずいぶん知った。俱知安は北海道南部に位置し函館本線と胆根線の合する所道内オ一の秀峰羊蹄山のふもとに発達している。

近くに有島農場しかの有名な文学者有島武郎の開放した農場であるまた彼の著書カインの末裔の背景となった。)がありまたニセコ昆布等多くの温泉群にとりまかれている。

人口数千のこの町はこのあたりの中心となっていて各種の催し物も行なわれる。私の居た間に現馬競走、大相撲、ニセコ、板丹国定公園指定記念祭等もあった。七夕では内地では竹を使うがここ北海道には竹が目生しないのでヤナギを使う。

軒先にだらりと枝のたれた柳の木を飾り立てている風景は異様であった。またここでは赤飯は甘納豆を入れてある。あつきの赤飯を食べなれている私には甘くて食べられなかった。俱知安からニセコ連峰、羊蹄山等のスキー場も近い。町のどこからでもエゾ富士羊蹄山の雄姿が見える。土地の人に言わせれば俱知安からの眺めより昆布(函館本線)喜紋別(胆根線)あたりの方がもっと素晴らしいとの事で私も帰りに喜紋別から眺めてみたがなる程富士にひけをとらない位素晴らしい。冬の降雪量は道内で数mに達し10月上旬には既に羊蹄山頂に雪を見るという。蝶についてはキアゲハミヤマカラスアゲハ、モンシロ、エゾスジグロシロチヨウモンキチヨウ、コチヤバネセセリ、クジヤク、ウラギンスジヒヨウモン、オオヒカゲ、オナガシジミ、キバネセセリ、コムラサキ、アカタテハ、マシジミ等を認めている。またセミではコエゾセミが多くエゾマイマイも居る。このあたりのフキ、イタドリ、ヨモギ等の植物はものすごく大きい。それに背丈より高いキク科植物の黄色い大きな花がいたる所に咲き乱れている。そして内地には春咲くような花が咲いている。ニセコアンブリでは広大なお花畑が比較的低い所にある。これらの事は1カ月の俱知安滞在から得た知識である。もっといろいろな事を体験したのだから今日はこの辺で止めておいて次に移る。

さて8月14日でバイトを止め、羊蹄山に登る事にしていろいろ町で買物をする。だが翌15日は昨夜半から降り出した雨が止まずそれに大雨注意報が出て事態はますます悪化ついに登山を中止して買って来た食料を宿で皆と食べ映画を見て一日終了翌16日も雨は降り続く。この日前田君の自宅から電報が届き19日彼が帰るまで札幌で待つ事にして折り返し電報を打つ。昼頃雨の俱知安を離れ3時半頃雨の降りしきる札幌に着く。東西南北さっぱり分らないままに駅前からハイヤーに飛び乗る。恵庭(彼の住んでいる所)に着いて仮宿の手続きをすませ17号室に宿泊。かくして19日まで一人で暮らす事と相なった。

夜になって寮生と共に夜の札幌を見物にまわる。大通り公園では丁度夏祭りの最中で大変な人だった。夜空に浮かぶテレビ塔とかサーチライトに浮かび出た水とかで北国の夜は静かに彩られていた。12時過ぎ存分に遊んで我等4人はススキノから歩いて帰ったのだった。17日朝少し小雨がちらついている。昼過ぎまで寮に居て本を読んだり荷物の整理をして過ごす。昼からは雨の止んだ構内を見物する。クラーク像ボブラ並木は観光客がいっぱい集っている。もはや観光地化した構内

は期待外れであった。18日9時半頃寮を出て北大附属植物園へ足を運ぶ。入場料40円也を払って中に入る。町のまん中に広大な森林を残しているこの植物園にさすがは北海道だとまず感心する。園内にはアブラセミかいくらでもいて手づかまえられる。園内には薬用植物園とか博物館、熱帯植物園等があり私はそのうち博物館に入ってみた。日本最後のオオカミの標本とか日本最大のクマの標本及びそのクマの食べた人間の足や手のピン漬け etc 魚類、哺乳類の標本、アイヌ資料化石等豊富に陳列してあっていくらいても退屈しなかった。結局2時間ばかりここに居て外に出る。植物園から出て足の向くままに円山公園まで足をのばす。うっそうたる円山のふもとにあるこの公園は本当に市民の憩いの場所となっている。網を持って行ったが採集する気にもなれず近くの札幌神社で一人北海道に居る事をしみじみと思うことで見た蝶はエソスジグロヒメキマダラヒカゲ位なもの。丸山動物園に行つて後、円山に登ろうと思つたが寮に帰る。19日寮の食堂から朝飯を食つて17号室に帰ると前田君が帰つて来ている彼少しふとっているようだった。私のより一まわりデジカイキスリングの上に岡山名産のモモをのつけている。今年初めてのモモはうまかつた。宝島で採集した蝶、甲虫等は刷らんの中で異様な匂いを発散させている。それにホルマリン漬けのエラブウナギやらアルコール漬けのミミズやら果てはネズミの皮までキスの中から出して見せてくれる。後に知つたのだが私の家へ陸生のヤドカリを持って来ていたのだ。そのヤドカリ私の机の上で芋をかじっている。彼の荷物を一応整理してまもなく二人は彼の先生?とかいう農産生物の太田講師に会いに農学部まで出かける。室々たる農学部の一室に、おさまつて彼の宝島での活躍ぶりを拝聴する。彼の話しぶりに皆圧倒されて聞いているようだった。いろいろと興味ある事どもを一応話した後で腹ごしらえをしてクラーク会館まで出る。食事の後彼に札幌の町を改めて案内してもらふ事にする。電車で駅前通りまで出て狸小路を抜けテレビ塔に登り市内展望の後時計台に足を運び寮に帰る。この夜これからの予定を組み天井や壁に黒々と書かれた先住者の遺筆を眺めながら眠る。20日朝の間にテント、ラジユースを借りて来て食料買出しに出かける。値切つたり文句をつけたりして買つて約1週間分の食料はさすがに重い。寮まで二人してようやくかついで帰る。この夜私の不注意から計画を変更して彼の先輩2人と彼と4人で夜の札幌を歩き翌朝3時無事寮に帰着。

21日昨夜の無理がたたつて昼まで眠る。昼からバツキングをすまして10時14分札幌発根室行の普通列車に乗り込む。岩見沢から乗つて来た女子学生と共に夜行列車の旅をする。

然 別 湖

夜明け前狩勝峠の雄大な眺めや山の白く霧のかかったエゾマツトドマツ等のきりたつた様な美しさに気をよくしているともまもなく新得駅を通過するまで曇天は続く。6時6分十勝平野オ1の都市帯広に到着肌寒さを覚えながらこの街路整然たる町をあちこちぶらついてバスの待ち合わせをする事にする。8時過ぎ拓殖バスに乗り込み(340円)広大な十勝平野をどこまでも走つて行く。道は悪くうしろの荷物が時々落下して来る。やがてバスは山の中に入り両側にシラカバの白い肌が見えて来る。扇が原展望台でバスはしばし休憩、バスから降り晴天だと雄大な眺望が眼下に広がる話に少し失望する。だが花に舞うヒヨウモンを見て気をよくする。網を振っている者も一人居た。ヒヨウモン一匹カメラに収めて再びバスに乗り込みガイドの説明に耳を傾ける(実際は居眠りをしていたらしい)駒止湖を樹間に眺めバスはいよいよ湖畔に出る。サルオガゼ(このあたりでは蓑藻と言われる)がエゾマツ、トドマツにまるで纏でもくっついている様に付着してこのあたりの景観をより美しく飾りたてている。然別湖——この湖は大雪山国立公園の南部十勝平野の北部にある堰止湖で湖面海拔797メートル周囲約16km最大深度2000mを超え道屈指の深淵で湖面には弁天島を浮べて風致を添え周囲は展望山、白雲岳、ベトウトル山など峻嶒奇峰に囲まれ常に白雲去来し北海道でも異色のある山の湖として大雪山国立公園の特別地域となっている。湖には岩魚、出鱈魚が棲息し春秋には尺あまりの岩魚が釣れる。また大型遊覧船が50分で湖を一周する。あたりは針葉樹の原始林に覆われ、岩つつじ、岩まつ、石楠花が生長しその新緑は秋の紅葉と共に佳麗で実に山紫水明、風光絶佳の秘境である。然別は糖平のハイキングコースもある。(観光パンフレットより)———

湖畔に沿つてしばらく行くとやがてバスは然別湖畔ホテルの玄関口に止まる。10時丁度到着するキャンプ地はここから程遠くない。すでに2,3のテントがはられてある。湖に突き出た所でキャンプ地としては良い方である。さっそくテントを張つてカンパンをかじる。テントを張つてしまつてから採集を始める。まずエルタテル・シータテハ、コヒオドシ、フタフジチヨウ等を網にする。ヒユウモン類も花上

多い。そうこうしているうちにキャンプ地にあるエゾマツ、トドマツの木の幹に多数のシラフヨツボ ヒゲナガカミキリを見つけてまぎネットにそれらを放り込んでおいて一応採集し尽くしてしまおうと毒管で一匹ずつ殺す。殺虫剤を忘れていた事がこの時分ってこれ以後乏しい毒管で苦勞する。カメラにも生態写真を収めてから先程バスを通った湖畔を歩いて行く。扇が原展望台まで行くつもりで出かけたのだが、……道端にはオオフキのカサのような葉が茂っているしエゾマツ、トドマツの木に寄生しているサルオガゼが何か知らクリスマスツリーをおもわせておもしろい。そんな湖畔を歩いていると花に飛来している多数のヒヨウモンが目につく。たいていはミドリヒヨウモンウラギンヒヨウモン、ウラギンズジヒヨウモンだが時にはギンボシヒヨウモン、オオウラギンズジヒヨウモンも混じっている。エソスジグロ、ヒメキマダラヒカゲ、モンキチヨウ、クロヒカゲ等も多い。カミキリでは先述のシラフヨツボシヒゲナガカミキリの他にフタフジハナカミキリ、ハンノアオカミキリ、アカハナカミキリ、マルカタハナカミキリヤツボシハナカミキリ、ミドリカミキリ

等が花に來ている。空はひどく曇っているがその割合には虫の数が多し。湖畔の山に登り始めたがミヤマハンミヨウとヒヨウモンしかいないのでひき返す。扇が原まで行くのを断念してキャンプ地まで引き返す。キャンプ地まで帰りボートに乗る。二人で交代で漕いでも対岸まで行き着かない。結局キャンプ地の前を漕いでまわつただけだ。それでも二人は結構汗をかいてのびてしまった。ボートに乗る前は肌寒かったのがその時丁度近くの山から流れて來た雲が通り過ぎ心地よい湖上でオオイチモンジを拾う。ホテルの裏ではヒメマスを水槽に入れてある。またユースホステルの側には養魚場？がありザリガニ（アメリカザリガニとは違う）がいっぱい居る。それらを眺めたりあちこち歩いたりして夕飯の用意を始める。献立はカレーになっているが水をいっぱい入れた為にスープになってしまった。それでも結構腹の中におさまつたらしい。夜になってユースホステルのあたりで夜間採集でもと思ったが虫の整理の為に止めてテントに入ってシユラフにもぐり込む。明日は糖平まで歩かねばならぬ。隣ではザリガニを焼いたりしているが我々は明日の為に眠る。

次号につづく

岡山県井原市以北蝶類採集記

難波通孝

井原市より北部になる美星町を中心とする一帯はまだ調査されていないらしいので6月16日友達中島君と8月14日は友達黒田君と自動車で出かけた。まず6月16日は井原市青野附近であまり奥に行かなかつた。採集したものをあけて見るとキアゲハ1頭目撃、モンシロチヨウ、キチヨウ、モンキチヨウ、ヒカゲチヨウ、ウラナミジヤノメ、ルリタテハ、コミスジ、アサマイチモンジ、ベニシジミ、ルリシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、キマダラセセリ、ダイミヨウセセリ、オオチャバネセセリ、チャバネセセリ、の19種を数えた。ゼフィルスはかなりいたんでいるものもいたがオオミドリシジミの早は羽化したばかりに見えた。この日の天候はますますであった。

8月14日は井原市より川上町に通じぬけた。この日も蝶類調査を主目的として出かけたので飛んでいるものは種を判定するまで近よりわからない時は網に入れて調べた。まず井原市、池ノ内、青野、中尾、前屋原、日ノ尾、黒忠のコースで目撃採集したものをあけて見ると、モンシロチヨウ、

キチヨウ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、アゲハチヨウ、ヒメジヤノメ、コミスジ、クロアゲハ、ウラギンシジミ、カラスアゲハ、キマダラヒカゲ、ヒメウラナミジヤノメ、オオチャバネセセリ、コチャバネセセリ、ダイミヨウセセリ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ジヤコウアゲハ、ヒメキマダラセセリ、ルリシジミ、キアゲハ、オナカアゲハ、モンキチヨウの23種を数えた。上記は目撃、採集した順序に書いたものである。次に黒忠より笹ノ丸を通り風袋、日出谷までいた蝶をあげて見ると、コジヤノメ、キアゲハ、キチヨウ、コチャバネセセリ、コミスジ、ベニシジミ、ヒメウラナミジヤノメ、ナナガアゲハ、ツバメシジミ、モンシロチヨウ、サカハチチヨウ、カラスアゲハ、アゲハチヨウ、ここで十数頭のキチヨウと数頭のコチャバネセセリがいつせいに飛びたつたのには目を見張った。吸水していたのである。そして成羽町に入るとモンキアゲハ、オナガアゲハ、カラスアゲハなどを採集した。それから備中広瀬によって岡山市内へと帰った。

ドクトル・ザーメン採集回顧録(1)

行きはよいよい帰りはこわい

畏友青野孝昭氏と天銀山にカミキリを追う

ドクトル・ザーメン

6月のある土曜日のこと、いつもの重井病院屋上の倉敷昆虫同好会事務所で明日の天銀山採集を青野氏と打合せた。雨ばかりが降り続き、当日も曇行きがあやしかっただけに、けだし殊勝な心掛けではあった。青野氏は、カミキリのクリの花に群がり舞う様よろしく思ひめぐらしながらはや御気嫌のようであったが、しかし私の心境は複雑であった。というのも、青野氏と採集の約束をしたのはこれが初めてではなく、そのたびに雨にたたられて果さなかつたのである。青野氏の勤務校倉敷南中学校は今年は道徳教育の文部省指定校として、氏もその研究に励んで居られる由である。その青野氏のお通りといえ、たとへ大雨が降り続いていてもたちどころにびたりと止んでしかるべきであり、泣く子も笑うという青野氏の人柄である。私も安心して採集の準備万全をととのえ床についたが、その度に裏切られてきたのである。これは密におもりに、青野氏の道徳教育に対する力の入れ方がまだまだ足りないせいであり、道徳教育も地におちたかと歎かざるを得ない。とに角万一ということもあり準備だけは整えた。何をかくそう5月3日同好会才1回採集会で玉川に行ったとき、捕虫網のリングを忘れたばかりに、玉川の昆虫共危き命を永らえさせる結果となつたことがある。これも功德というものであつたらうか

忘れまいぞよ 網のリング

群がる虫ども みな殺し

.....

.....

明くれば水無月16日、4時に目をさます。人間その気になればいつでも起きられるものであり目覚時計などかける必要はない。目覚時計がなければ起きられないという者はおほそ動物に非ずである。直ちにとび起きて空を見上げれば、こはいかに、夜空にもまぶしく星の瞬を認めた。予定通り決行である。さては青野氏の神通力は天上にとどいたものか。勇躍青野氏宅に向かう。この頃より再び曇行き怪しく心配しつつ汽車に乗りこむ。結局この日は止午薄日ももれまずまずといったところであった。今つらつら考えるに、雨は青野氏の不徳のいたす所にあらず。原因は私にあるらし

い。6月終り重井院長をはじめ新庄村に2回日の採集に出かけた時もひどく雨に悩まされたし、8月に花知ヶ山行きを計画したときも雨でおじやんと相成つた。私はよくよくの雨男であるらしい。読者諸氏よ、ゆめゆめ御油断召されるな。私が参加するときは雨具の用意は必至であり、悪くすると計画を中止せねばならないかも知れない。だからといって、私に内緒でこっそりと採集に出かけようものなら、それこそたちどころに天罰があたりましようぞ

新見でかなりの時間停車、その間どこへか青野氏が消えてなくなった。どこへ消えたか迷子にでもなつたかと心配していると、発車間近く帰つてきた。まずは安心とふと青野氏をみると手に何かつかまえている。ヘビトンボである。さてこそ青野氏、それでこそ青野氏である。ここで感心するばかりが能でもあるまい。我もおくれじと早速とび出し、プラットホームの木をみると居た居た4、5匹、大きな目をむいてゆうゆうと羽をひろげて我物顔で止まっている。高い所で手が届かないし、近くには棒もなく、発車のベルは鳴っているし、畜生、木をゆさぶつたが、しっかりと木にしがみついているのか落ちてこない。口惜しいがあきらめた。敵ながら天晴れな奴である。

8時頃足立駅下車。プラットホームを歩くとき、今度こそおくれをとるまじと目を皿のようにして歩くうち早くも電信柱にゼファイユスの止まっているのを認めた。網を用意する間もあらばこそ、手づかみにして生捕る。奴さんすこし朝寝がすぎて運のつきと相成つた次才、かくて捕獲才1号の栄益をになつてウラナミアカンジミは三角紙へと落ちつく所へ落ちていた。まずは目出たし目出たし。駅待合室では前夜光を求めて集まつた蛾が、遊びつかれてか窓といはず天井板といはずへばりついている。これ幸と青野氏網を用意するのももどかしく、しきりと三角紙に収めた。私はそんなことに一切お構ひなく、新見で青野氏に先をこされたヘビトンボを捕える。いくら、かま首をもたげ大きな歯をむき出して人間様にはかないっこない。いやに往生際の悪い奴だ。三角紙の中でじたばたしてとうとう紙を喰ひ破っている。

この野郎暴れるなら勝手に撃れろ。ここ数時の命だ。帰ったら腹を割って雄なら睾丸を切りとってセクションしてやるぞと覗みつけたらおとなしくなった。どんなもんだ、さまを見やがれ。

足立はさすが石炭の町、コンクリートで舗装された足立銀座を輻音高く歩む。ようやく起き出した寝坊共、われわれが大きな網をさげているのを見てはひそひそ騒いでいる。この忙しいのに虫取りなどとはと、われわれはよほど金と暇とをもて余している呑気者に見えたのだろう。町並みをはすれる頃ノコギリヒラタカメムシを採集。たいして珍らしいものではないが、昆虫館には入って居らず小野洋氏に見せたいがとれそうなのがない。

青野氏は目ざすハナカミキリがとれそうな所がないせいかスタスタと早足で歩き続け、追いつくのに一苦労である。こちらはトンボは居ないか。チョウが飛び出して来ないかなどと目をきよさきよささせ、ゴマダラチョウ、アサマイチモンジ、イチモンジチョウなどの蝶、ウスアカ、ルイスアシナガ、アカクビナガ、ウスモンなどのオトシブミ、カメムシなどとる。ウノハナなどの花にはカミキリは一匹も見当らず、僅かに粗朶をゆすってアトモンサビ、シロオビゴマフ、シロオビサビ、ナカジロサビなどのカミキリをとる。強くゆさぶって粗朶をしぼってあるかずらが切れ、結び直すこともできず、まわりを見廻して人の居ないのをこれ幸と元通りの所にそっとおいて逃げるようにして先へ進む。

3時間ほど歩き続けて、天銀山の麓にとりついた所で少し早い昼食。一服した所で念のためにウノハナをゆすると、クロハナカミキリが入ってくるようになり、にわかに緊張するのを覚えた。青野氏も目ざすは真剣となりこれまた一匹も逃さずと花から花へとひづく。ミヤマクロハナカミキリもかなりとれ、網をふり廻しているとエンフハナカミキリが入ってきた。青野氏に見せると先ほど網に入れたが逃がしてしまったと口惜しがることしきりである。やや得意となりさらに花をねらうとキモンカミキリらしきものを発見、思はず高鳴る胸をしずめつつ網にうけて落しこむ。してやったりと管瓶を出すのももどかしく中へ様子りこんだとき書きたい所だが、思はず出た武者振るいで逃がし、再びネットに捕える。今度こそ慎重にと思ったか手のふるえは治まらず、どうしても管瓶に入らなくて、三度逃がす。木に止まった所をねらって網をふったが、強くふりすぎて失敗、どこかへ見えなくなってしまった。残念、近くをひたひた探したが、敵の奴つかまるのがこわいが出てこない。逃がした魚は大きいのだと見え、カスがキモンかイツシキキモンであったかもわからず、

しばし呆然として立ちすくむことしばし。意気消沈してネットを振る手に力が入らず、情性でスイーピングを続けていくと、ラインアシナガ、ヒメアシナガ、ハイイロビロウド、チヤイロのコガネ類、クロハナムグリ、ヒメトラハナムグリなど採集。ようやく峠に出る。ややひらけたシバの斜面には毎日ぐれ、花の咲いている木をねらうと、甲虫がうようよしている。ネットにすべてたたくこみ、管瓶に入れるのももどかしくとりまくった。ツマグロハナ、ツヤケシハナ、ムネアカクロハナ、トゲヒゲトラ、マツシタトラのカミキリやシヨウカイの類であった。獲物もかなり多く、一服して時計を見ると午後1時を廻っている。これは大変、早く出発せねば汽車に間に合はないがと思ってやきもきしていたが、肝心の青野氏は一向に無頓着で夢中で花から花へかけずり廻っている。それならこちらを負けてはいまじと再びネットを手にし、青野氏にようやく帰心がついたのは2時近くになっていた。

あと1時間しか時間がない。来る時は4時間ほどの道である。どだい無茶な話だ。しかしとに角帰らねばならない。途中までは何も考えずひたすら歩くことに専念。1回しかはいていないキヤラバンシューズの音も軽やかに飛ぶようにして歩き続けること半時、軽やかな足音もバタンバタンという音に変わり靴の重さが身にしみてきた。足が歩いているのではない。靴が前に進むので中に入っている足も自然に前に出るといったふうで、そのうちひざを高くもつて大きなスライドで歩こうとするが足がなかなか前に出ない。仕方がないので上半身を前に倒すようにして、体の平衡上仕方なく足が前へ出るようにして進む。あと40分、30分と時間が迫ってくるかと青野氏は気でも狂ったかとうとう網を肩にかついで走り出した。何もてう急かなくてもよかろう。=あわてる乞食にもらいが少ない=のたとえ、次の汽車にしてもよいのに。走りたければ勝手にするがよい。お手並拝見、こっちはゆっくり採集しながら帰るぞとレジスタンスを試みる。見る見る青野氏との距離が離れていくのでいささかさびしい気持となり、一人取残されて汽車におくれたとあっては末代までの恥とばかり、網にヒヨウモンを入れたまま負けじと走り出す。青野氏は更にピンチをあげるのでなかなか追いつかず、流れる汗は滝の如く口を大きくあけてひた走りに走る。こうなっては何も目に入らない。下をむいて地面が徐々に徐々にとび去るのを見るのみで、この時ばかりは生きた心持とてなく、ようやく山を下り足立銀座へと出る。あと10分やれ間にあったかと一安心したのも東の間、帰りの汽車が一声高く警笛を鳴らして通りすぎた。

畜生馬鹿にしていやがる。何も警笛を鳴らすこともなかりと汽車をにらめば、窓からこっちを見て早くおいでおいでと涼しい顔をして乗客が我々の珍妙なレースを見物している。青野氏このレースに負けじと最後の力をふりしぼって大変な勢で走り出した。友達がひのいな奴だ。こんなえらい目にあわせてまだ走らせるとは、もう青野氏とは金輪際一緒になんか行くものか。しかし、歩きながらまた考えた。汽車は間もなく駅につくだろうすれば発車まであまり時間がない。折角ここまで来ておきながら乗り遅れたとあつては御先祖様に申し分けなしと、これまた一目散りと駆け出したいくら走っても駅の見える所まで出ない。いつの間にか道がこんなに長くなったのだろう。足立のような田舎のくせにいやに駅まで長い。ようやくのことで駅が見える所まで駆け続けると、すでに安心したか走り疲れたか早足に歩いていく青野氏に追いついた。ふと見ると青野氏は棒だけかついで先に網がついていない。何という早技であろうかいつの間にか網をしまつて走りやすいように棒だけにしたのだろうと感心して氏に話しかける。青野氏は思はず棒の先に目をやる。思はず出た一言「あっ！網がない！」で私はすべてを了解した。おとしたのである。だからいわんこつらやない。一汽車おくらせてゆつくりすればよかつたのに、私まで巻き添えにして、だからたとえにもある通りあわてる乞食にもらいが少ないだ。あきらめは

悪かつたが、汽車を目の前にしては捜しにも帰れず、思はず無念さに体をぶるぶると一振ひさせたかと思うと再び脱兎の如く駆け出した。私も走っては歩き、歩いては走りてようやく橋を渡り倒れるようにして汽車にころがり込んだ。汗の流れるのにまかせ息をはずませて今終つたばかりのレース場をぼんやり眺めていると、子供が「おじさん」と呼ぶ声が線路外の道です。まさか我々に話しかけているのであるまい。これまでまだ紅顔の美少年、断じてオジサンなどと呼ばれる筋合の者ではない。誰に向かつて呼んでいるのだろうかふと子供を見ると、手に網を持っている。正しく我々に向かつて話しかけたのであり、紛れもなく青野氏の落した絹製の網である。さては網を拾って速い道のりをはるばると、我々を追いかけて届けてくれたのだろう。網をさし出そうとする少年もようやく落し主に返すことができ、はるばると届けにきた甲斐があつたということか、心の底から嬉しそうであり、さながら後光がさしているかとも思え、山奥の田舎の人の純心さに胸せまるものを覚えたのであつた。

この一年間で、この採集の時ほど呪詛の多かつたことはなく、しみじみ考えるにやはり採集は青野氏といつしよでなければならぬといつづく思ふのである。たとえそれが帰途ひた走りに走らねばならぬにしても。

(1963年11月1日記)

原稿募集

報文、短報、随筆、採集記、解説など昆虫に関するものであれば何でも結構です。多数お寄せ下さい。

投稿に際しては、JOL. 13, NO. 1 P. 13の投稿規定をよく御覧のたゞたいと思います。

殊に1行22字に書いていたゞくこと、学名は明確に記入いたゞくこと、又図版は、そのままができますので、すみ又は黒インキを使用して、できるだけ美しく仕上げたゞくこと、などにつきましては充分に御留意下さいますよう御願ひします。

編集部員は、平素多忙を極めております。できる限り手数がかゝらぬよう御願ひいたします

(係)

目 次

○難波通孝：ムラサキツバメの食樹シリブカガシについて	1
○難波通孝：ゼフィルス4種飼育記録	3
○難波通孝：伯耆大山蝶類採集品	5
☆ お と し ぶ み ☆	
○大野憲一：児島郡灘崎町でトラフシジミの終令幼虫を採集羽化する	5
○水野弘造：総社産甲虫三種	5
○水野弘造：四国産甲虫数種	6
○山砥司朗：草間でイツシキキモンカミキリを採集	6
○貝原英治：備中町井川にアカジマトラカミキリ	6
○小林健二・楠田実居：草間でフタテンカメムシを採集	7
○小野 洋：倉敷のミンミンゼミ	7
△△△△△△△△△△	
○秋山博志：北海道記(1)	8
○難波通孝：岡山県井原市以北蝶類採集記	10
○ドクトル・ザーメン：ドクトル・ザーメン採集回顧録(1) 行きはよいよい帰りはこわい	11
・ 会員消息	13

医 療 法 人

重 井 病 院

倉 敷 市 幸 町

TEL 代表 (22) 3 6 5 5